

事業所における自己評価結果(公表)

児童発達支援

公表:平成30年12月19日

事業者名: 児童発達支援・放課後等デイサービスもなか

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	活動により1,2階の使い分け等。	定員とスペースとの関係では問題はない。より有効に活用する為には、屋外や屋内の活動内容や場所の使い方の工夫と調整をすることによって効果的にスペースを使用する。
	② 職員の配置数は適切である	4	0	職員の入れ替えやシフトでの対応。	職員体制づくりと活動の工夫、調整を今後も続けていく。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	1	子どもの活動の流れの工夫と見える化。	子ども達の活動上問題になる様な環境はないが、より使い易くなるようにまた、利用者が増えるたびに一層の構造化を図るように見直しをしていく。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3	1	生活空間のシンプル化、活動に対応したのスペース化。	子ども達の生活空間は安全面だけでなく、心地よく活動する為にも大切にしたい。子ども達の利用前や退所後の整頓、清掃の徹底を図る。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	0	2	目標設定、活動内容等職員の共通認識づくり。【職員会議での確認】	業務改善に繋がるようPDCAサイクルの概念、内容等について共通理解を深められるようにする。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1	評価表を職員会で総括し事業所の改善や支援計画の改善に繋げている。	今後も評価表を活用し改善に繋げていく。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	2	今年度の保護者会等での保護者と共通認識を持てるように話題にしていく。	12月中に、会報やホームページ等に「保護者向け」、「事業所向け」を載せていく予定です。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	4	評価結果を元に業務や子ども達の支援に繋げている。	第三者による外部評価をどのように進めていくのか、今年度の課題とする。【来年度の向けの課題】
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	2	特別支援学校での授業参観等で定期的に参加、研修をしている。自発・放デイは資料を作成、研修に役立てている。	研修の機会の確保は支援の改善にとっても重要。児童発達支援の研修をどのようにしていくか検討課題です。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	3	0	アセスメントを基礎にしながら子ども達の実態や課題を職員間で確認し合うようにしている。	アセスメントの内容を保護者との共通理解に繋げいっそう支援計画の改善に繋げる。
	⑪ 子どもへの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2	職員の経験や個々の子ども達の実態や課題を活用している。	事業所で使いやすく役立つ『ツール』を検討中です。今年度の課題です。(いろいろな『ツール』を参考にしながら選択する)
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	2	2	支援の内容を職員間で確認し合う。	ガイドライン及び支援の内容について再確認し合う。家族支援、地域支援の内容を保護者と確認し合う。

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	0	共通理解をもちながら支援。支援内容を整理しながら充実させてきている。	子ども達一人ひとりの実態や課題、ニーズを踏まえて支援領域や内容、方法の一層の改善を図る。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	職員同士で内容、役割、等情報を共有し合う様にしている。	職員同士でいっそう報告、連絡、相談し合いながら立案していく。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	活動の内容を総括し次回に生かすようにしている。	子ども達の実態や課題に合うように工夫、改善を図っていく
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4	0	子ども達の状況等季節、環境等に合わせた個別や集団を組んで支援している。	引き続きひとり一人に合わせて個別や集団の視点で活動を充実させていく。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	実施している。	打ち合わせに参加していない人でも当日の活動について連絡するようにする。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	2	終了後確認、共有し合っている。	引き続き行なう。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	1	ノートに記録を取り確認し合っている。	記録に留めるだけではなく支援の検証・改善に繋がるようにする。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	0	子ども達や保護者の願いをモニタリングし計画に反映させている。	内容の充実を更に図る。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	2	代表者が参加し内容を文章で報告するようにしている。	参画した時の内容を更に職員間で確認し合う。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	1	子ども達の通う学校とは定期的や状況に応じて連携して支援している。	今後も必要に応じて連携を密に取り組む。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	3	該当する利用者はいない。	特に想定していない。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	3	該当する利用者はいない。	特に想定していない。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0	4	随時、ケースによって対応している。	今後も必要に応じて必要に応じて相互理解を図る。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	定期的に、また、ケースによっては随時対応している。	移行支援は非常に大切なので今後も実施していく。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1	専門機関との連携は、連絡会で情報を得たり研修をしたりしている。	今後も助言や研修を受けながら職員間の共通認識を広げる。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	4	屋外の活動等で間接にでも出会う機会がある。	集団た集団としての交流は現在ない。優先事項にはなっていないが、今はその下準備の時期。無理ない形で子ども達に負担にならないような状況を準備している時期である。今後の課題。

	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	4	現在、参加していないが地域の状況の把握に努めている段階です。	参加できるような状況、環境づくりを進めながら、状況があれば参加を検討する。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	送迎時や連絡帳等の有効的な活用を図りながら保護者会等の工夫、改善を図っている。	今後もいろいろな機会を活用し共通理解がより深まるようにしたい。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	2	どのように支援するか、保護者会や具体的なケースに従い対応を検討、実施している。	家族支援についてPTをどのように支援していくかその方法を含め、職員間の共通認識をつくる。
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1	丁寧に説明するようにしている。	今後も保護者の関心、質問に合わせて丁寧に説明していく。
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	3	0	丁寧な説明と情報交換をしながら計画に反映させるように務めている。	今後もいっそう共通理解の増大しながら、同意を得られるように勤めていく。
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	2	保護者会や個別面談の活用、改善を図るようにしている。	引き続き保護者の要望に繋がるように助言、支援をする。
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	0	保護者会の内容のあり方について見直しを図り、保護者間で話し合えるような工夫をしている。	保護者会の中で保護者同士が連携できる場や話題を提供していく。
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	保護者の相談や申し入れには迅速に対応するようにしている。	今後も努力をしていく。
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	月毎の事業所だよりや行事等で詳しく情報を発信している。また、定期的にブログでも情報を発信している。	今後も必要な情報、保護者の関心のある情報、職員や子ども達の情報等を発信していきたい。
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意している	4	0	整頓しながら一元管理している。	今後も十分に意識して管理していく。
	③⑲	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	0	子どもを中心に保護者とも意思疎通等を図るようにしている。	子どもとの意思疎通や情報伝達は、事業所によって立つ基盤である。より充実できる様にしていく。
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3	地域の方々との触れ合いの場を設け子ども達の活動が有意義なものになった	地域との関わりがスタートした年でもあり、今後も無理をしないで、まず職員がその環境をつくる。
	非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	2	各マニュアルを契約時に文章で確認するようにしている。
④②		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	1	定期的に内容を見直しながら実施している。	さらにいろいろな状況を想定し必要な訓練を行っていく。
④③		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	1	契約時に確認をしている。	今後も、保護者に確認を取り、職員の共通情報にする。

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	3	現在対象者はいない。契約時に保護者から伺い職員で確認し合っている。	対象となる利用者はいないが、保護者にその有無を伺い、記録し確認し合う。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	3	ヒヤリハット集ノートを活用している。	年度当初を含めて、ヒヤリハット事例を報告、教訓にする為の機会を設ける。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	1	2	資料を作成し個別研修に活用している。	資料を作成しているが、対応の仕方も含め、議題にして職員の共通理解を持てるようにする。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	0	保護者との利用契約時に文章で確認している。	利用契約時だけでなく、時間も確保し内容を双方向で確認できるようにする。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○数字の合計が合わないのは、未記入があった場合の数字です。